

スペイン王立歴史アカデミー図書館所蔵 Cortes 9-2666 文書の日本語文

川 口 敦 子

1. はじめに

松田 (1964) には、スペイン王立歴史アカデミー (王立学士院、Real Academia de la Historia。以下「RAH」) 図書館所蔵「9-2666 (旧 Cortes 566)」文書の f. 357 と f. 358 に、ローマ字による日本語文があることが報告されている。この RAH Cortes 9-2666 文書に見える日本語文 2 種について、これらが1613年の江戸の殉教に関するものであり、チンチョン報告書とアビラ・ヒロン『日本王国記』にほぼ同内容の異文が存在する。

本稿では、RAH Cortes 9-2666 文書の日本語文とチンチョン報告書と『日本王国記』の異文の関係を明らかにする。

2. RAH Cortes 9-2666 文書の日本語文 2 種

松田 (1964) は、RAH Cortes 9-2666 の f. 354r から f. 377v に収録されている文書の概要を示し、そのうちの f. 357 と f. 358 にローマ字文があることを記している。

354-377v (Maço 25. No. 1.) 1617V12, マドリー。日本国に於てキリシタン宗に対して行われた大迫害、並びに去る1614、5年の日本の殉教者、皇帝と太閤の息秀頼との間の戦争に就て P. Fr. Sebastian de San Pedro の自筆署名。

(松田1964 : 139)

357 1614VIII14として、ローマ字で次の記事あり、「コノ者共ハ御法度ニ背キパ
テレ xurni 罷成リソノ上クミガリラノ仕り候間斯ノ如クナリ7月ノ1日
(^(ママ)xichigachino tzeitachi)」f.358に「此ノユヨタリノ者コノ以前キリシタン御
改ノ時 xu ○ ey caye mori...isat no サシアゲ□タリ、亦此度キリシタンニ罷
成候間斯ノ如クナリ、7月2日 xichiguachi futzuca」

(松田1964 : 139-140)

松田 (1964) の翻字では、「xurni」「クミガリラ」「ユヨタリ」等、解釈が難しい箇

所がある。

筆者は2012年9月の現地調査で原本を閲覧し、該当箇所を確認した。RAH Cortes 9-2666 の ff. 354r-377v は、「Relacion de la grande persecucion q~ la auido Contra la x~pandad En los Rejnos de Japon i del esfuerco conq~ an Muerto Por nuestra Santa fe muchos Martires Japones estos annos Passados de 13 14 y 15. J de la guerra q~ uno en Japon entre el emperador y Fideyori hizo del emperador Passado llamado Taico sama al mismo tiempo q~ succedio el expeler a los religiosos de todas religiones de todo Japon.」と題されたスペイン語の文書で、1613年、1614年、1615年の日本における殉教報告書である。松田 (1964) では「1614, 15年」とあって1613年が欠落しているが、これは原本の「13 14 y 15」の「13」の箇所に文字の訂正跡があって、これが文字の抹消と解釈されたからではないかと思われる。本文中に「los annos de 13. 14. y. 15.」(〔13, 14と15年〕354r15)と明瞭に書かれていることから、本文書は1613年の記事も含むものと考えられる。f. 376v には「en Madrid a 12 de Maio de 1617.」(マドリード1617年5月12日)の日付と「Fr Sebastian de San Pedro」の署名がある (376v3-6)。

原本を閲覧したところ、該当箇所の日本語について、松田氏による翻字には誤りがあることがわかった。本稿では f. 357v のローマ字文を「日本語文A」、f. 358r のローマ字文を「日本語文B」として、検討する。

日本語文A (357v13-15) のローマ字書き日本語文は以下の通りである。

Cono mono domo go fattó uo so muqui : Patere xurni macari narj / sono Vie
Cumigaxirauo tzuca mazuri soro ainda cacunogotocu /narj xichigachino tzui tachi.

(RAH Cortes 9-2666, 357v13-15)

松田 (1964) の翻字は、次の下線部の箇所が原文のローマ字と合わない。

コノ者共ハ御法度ニ背キパテレ xurni 罷成リソノ上クミガリラノ仕り候間斯ノ如クナリ7月ノ1日

(松田1964 : 139、下線部は引用者による)

松田 (1964) の「コノ者共ハ」は原文では「Cono mono domo」で、「ハ (ua)」に相当する語がない。「御法度ニ」は「御法度ヲ」(go fattó uo)、「クミガリラノ」は「組頭(クミガシラ)ヲ」(Cumigaxirauo) が正しいが、これは u と n、i と o、r と x の手書き文字の形が似通っているために読み誤ったものであろう。

日本語文B (358r12-15) のローマ字書き日本語文は以下の通りである。

Cono Juyo tari nomono Cono iJen Christan Von aratame no toqui / xutey
cayemoxi soro yoxi : Isat uo saxiangue itaxi : Mata Condo / Christan ni macari nari
soro ainda : caqu nogotocu narj : xichi / guachi futzuca.

(RAH Cortes 9-2666, 358r12-15)

松田 (1964) の翻字は、次の下線部の箇所が原文のローマ字と合わない。

此ノユヨタリノ者コノ以前キリシタン御改ノ時 xu ○ ey caye mori...isat no サシ
アゲ□タリ, 亦此度キリシタンニ罷成候間斯ノ如クナリ, 7月2日

(松田1964 : 139-140、下線部は引用者による)

松田 (1964) では○や□で判読不能箇所を示しているが、2012年に閲覧した限りでは原本の文字は明瞭であった。「ユヨタリ」の「ユ」は、原文の「Ju」を「Yu」と読み誤ったものだろうか。「mori...isat no」の箇所は、原文では「moxi soro yoxi : Isat uo」の部分であるが、途中が省略されているのは、やはり文字の判読が困難だったのだろうか。「mori」は「moxi」(申シ)、「isat no」は「Isat uo」(一札ヲ)、「□タリ」は「itaxi」(致シ)が正しく、日本語文Aと同じくrとxの取り違えが見られる。

日本語文A・Bともに、原本を見る限りは文字が明瞭に読み取れる箇所でも、松田 (1964) の翻字ではローマ字の取り違えや判読不能で処理されている箇所が見受けられる。原本から直接翻刻・翻字を行ったならば、このような翻字になることは考えにくい。松田氏は1959年12月から翌年2月までマドリッドに滞在し、その間にスペイン王立歴史アカデミー図書館で調査を行っているが、非常に限られた時間での調査であり、必要な資料はフィルムで持ち帰ったらしい (松田1964:2, 115-116)。おそらく、当時取り寄せた不鮮明なモノクロのマイクロフィルムに基づいて翻刻・翻字を行ったのではないか。そのために、このような翻字の誤りや判読不明箇所が生じてしまったのだろう。

3. チンチョン報告書と『日本王国記』の異文

3.1. 1613年か1614年か

RAH Cortes 9-2666の日本語文A・Bと同内容のものが、フランシスコ会イベロ・オリエンタル文書館 (AFIO) 所蔵のチンチョン神父による殉教報告書 (AFIO 23-1。以下「チンチョン報告書」とアビラ・ヒロン『日本王国記』の、1613年に江戸 (浅草・鳥越) で起こった殉教に関する記事 (川口2016, 2017) にも見られる。チンチョン報告書は2種の殉教報告書から成り、江戸殉教報告書は1r-35vの部分である。

チンチョン報告書では、日本語文Aは15v(ローマ字と日本文字)・27r(日本文字)、日本語文Bは18r(ローマ字と日本文字)が該当する。『日本王国記』では日本語文A・Bともにローマ字のみで第13章(第2輯)に見える。

RAH Cortes 9-2666の日本語文Aは、松田(1964)に「1614VIII14として」とあるように、「en 14 de agosto de 1614」([1614年8月14日に] 357v10)とあって1614年の出来事とされており、1613年の殉教とは年が合わない。しかしRAH Cortes 9-2666の一連の記事内には、1613年に殉教した「Mimbocu Juan. Doxin gregorio.」(〔未木ジュアン。どうしん¹⁾ゲレゴリヨ。〕 358v27)の記名がある。これはチンチョン報告書の23vにある日本文末尾の署名(連名)「如安未木」「けれこりよ」に一致するものと考えられる。また、『日本王国記』の本文では、日本語文Aの「宣告文」をグレゴリオ暦で1613年8月16日(佐久間他訳注1965:341)、日本語文Bの「宣告文」を翌8月17日(佐久間他訳注1965:345)のものとする。この日付はそれぞれ慶長18年の7月1日と7月2日に相当し、日本語文Aの「xichigachino tzui tachi」(七月の朔日)・日本語文Bの「xichi guachi futzuca」(七月二日)と一致する。翌1614年ならば慶長19年の7月1日・2日となり、グレゴリオ暦で1614年8月6日・7日となるので、8月16日・17日の出来事とする『日本王国記』の記述に合わなくなる。

チンチョン報告書の記事末尾には1614年3月14日の日付と「Fray Diego de Chinchon Comiss.」の署名がある(35r)ことを考え合わせると、江戸の殉教はそれ以前の日付でなければならず、やはり日本語文A・Bともに1614年8月(慶長19年7月)ではなく1613年8月(慶長18年7月)の出来事であり、これを1614年とするRAH Cortes 9-2666の記述は何らかの誤りと考えられる。

3.2. 異文の比較

日本語文A・Bについて、チンチョン報告書および『日本王国記』諸本の異文を表1と表2に示す。

チンチョン報告書は、ローマ字の他に日本文字を併記する箇所がある。

『日本王国記』諸本はすべて写本で、フランシスコ会イベロ・オリエンタル文書館所蔵の3本(AFIO 26-1, 26-3, 26-4)、エスコリアル図書館本(BME O-III-19)、スペイン国立図書館本(BNE Mss. 019628)、イエズス会ローマ文書館本(ARSI Jap. Sin. 58)を挙げる。『日本王国記』の本文はスペイン語だが、ARSI本の日本語はイエズス会のポルトガル語式ローマ字表記を採るのが他の諸本と異なる点である。

日本文字A(表1)について、チンチョン報告書や『日本王国記』のローマ字文とは異なる箇所がある。表記の揺れは考慮しないとして、「Patere xurni / Pe no xutey ni · Padre no xuteini」(パテレ xur に/ パアデレの宗ていに)・「tzui tachi / ychinichi · ichi nichii」(つuitachi/いちにち)の箇所で語彙が大きく異なっていることがわかる。

表1 日本語文Aと異文

RAH Cortes 9-2666 日本語文A	Cono mono domo go fattò uo so muqui :	Patere xurni	macari narj sono Vie Cumigaxirauo tzuca mazuri soro ainda cacunogotocu narj	xichigachino	tzui tachi.
チンチョン報告書 AFIO 23-1, 15v	此ものとも御法 度をそむき	はてれん宗に	罷成其上組頭を仕候間如此也	七月	朔日
チンチョン報告書 AFIO 23-1, 15v	Cono monòdomo gofattou somuqui	Pe no xutey ni	macarinari sono vye Cumingaxirauo tzu[]ama tzurisoro ainda cacunò gotocunari	xichinguachi	ychinichi
チンチョン報告書 AFIO 23-1, 27r	此ものとも御法 度をそむき	はてれん宗に	罷成其上組頭を仕候間如此也	七月	朔日
『日本王国記』 AFIO 26-1, 51r	Cono monon domo gofatovo somuqui	Padre no xuteini	macarinari sono Vye cumingaxeravo tzuca matzuri sono ainda cacunong tocu nari	xichin guat	ichi nichì
『日本王国記』 AFIO 26-3, 94v	Cono monon domo gofatou somuqui	padre no xuteini	macarinari sono Vye cumingaxerauo tzucamatzuri sono ainda cacunogotocu nari	xichin guatz	ichi nichì.
『日本王国記』 AFIO 26-4, 139v	Cono monon domo gofatovo somuqui	padre no xuteini	macarinari sono Vye cumingaxerauo tzuca matzuri sono ainda cacunongo tocu nari	Xichin guat	ichi nichì.
『日本王国記』 BME O-III-19, 140v	Cono monò domo go fatou somuqui	padre no xuteini	macari nari sono Vye cumingaxerauo tzucamatzuri sono ainda cacunò gotucanari	Xichin guatz	ichi nichì
『日本王国記』 BNE Mss. 019628, 173r	cono monò domo go fato bo somuqui	padre noxuteini	macarinari sono Vye cumingaxerauo tzucamatzuri sono ainda. cacunongo Tocunari	Xichun. guatz	ichinichy
『日本王国記』 ARSI Jap. Sin. 58, 207v	Cono mono domo fatto uo somuqi.	Padre no xùtei ni	macari nari. Sono uye cumigaxira uo tucamatcuri soro aida cacuno gotocu nari.	Xichiguat	xichinichi.

ローマ字だけを見ると、日本語文Aが異質に見えるが、チンチョン報告書の日本文字を見ると、ローマ字では一致しなかった箇所が「Patere xurni / はてれん宗に」「tzui tachi / 朔日」と、ほぼ一致していることがわかる。

同様に日本語文B(表2)を見ると、やはりローマ字ではチンチョン報告書や『日本王国記』とは語彙が大きく異なる箇所が見られる。「Cono Juyo tari no / Cono Juni yonin」(この十四たりの / この十に四にん)・「mono / monòdomo・monon domo」(もの / ものども)・「saxiangue itaxi / itaxyague・itaxi angue」(指上致し / 致し上げ)・「Mata Condo / mata」(また今度 / また)の箇所だが、これもチンチョン報告書の日本文字と比較すると、「Cono Juyo tari no / 此拾四人」「mono / もの」「saxiangue itaxi / 致指上」「Mata Condo / 又今度」と、きれいに対応していることがわかる。

表2 日本語文Bと異文

RAH Cortes 9-2666 日本語文B	Cono Juyo tari no	mono	Cono iJen Chistan Von aratame no toqui xutey cayemoxi soro yoxi : Isat uo	saxiangue itaxi :	Mata Condo	Chistan ni macari nari soro ainda : caqu nogotocu narj : xichi guachi futzua.
チンチョン報告書 AFIO 23-1, 18r	此拾四人	もの	此已前きりしたん御 あらための時宗てい をかへ申候由一札を	致指上	又今度	きりしたんに罷成候 間如此也 七月二日
	Cono Juni yonin	monôdomo	cono yxem chistan von aratameno toqui xuteiuo caye moxy soro no yoxy isatzuuo	itaxyâgue	mata	christâni macarinari soro ainda cacu nôgotocu nari xichinguachi futzua
『日本王国記』 AFIO 26-1, 52r	Cono Juni yonin	monondomo	cono yxem chistan Vo aratamen notoqui Xuteiuo caye moxisoro noyori isatzuvo	itaxi angue	mata	chistan ni macari nari soro ainda cacunongotocu nari Xichinguatz futzua.
『日本王国記』 AFIO 26-3, 96r-96v	Cono Juni yonin	monodomo	cono yxem chistan Vo[n] aratamen notoqui xuteiuo caye moxisoro noyori isatzuuo	itaxi angue	mata	christanni macari nari soro ainda cacunongotocu nari. Xichinguatz futzua.
『日本王国記』 AFIO 26-4, 140v-141r	Cono Juni yonen	monondomo	cono yxem chistan Vo ara notoqui Xuteivo caye moxisoro noyori isatzuvo	itaxi angue	mata	Chistan ni macarinari soro ainda cacunongotocunari Xichinguatz futzua
『日本王国記』 BME O-III-19, 142v	Cono Juni Yonin	monondomo	Cono yxen Chistan Vô aratamen no toqui xuteiuo Cayemoxi soro Noyori isatzuuo	ytaxi angue	mata	chistan ni macarinari soro ainda cacunon gotocunari xichinguatz futzin
『日本王国記』 BNE Mss. 019628, 175v	Cono Juni yonin	mon domo	cono yxem chistan Vô naratamen notoqui XuteyBo cayemoxi soro noyori Ysatzuuo	itaxi angue	mata	christamni macarinary Soroaynda cacunon gotocunari Xichinguatz futzua
『日本王国記』 ARSI Jap. Sin. 58, 208v	Cono 14 nin no	mono domo	cono yjen Cristan uô aratameno toqi xûtei [] cayemôxi sorote yori saxijju uo	ytaxi ague	mata	xpão ni macari nari soro aida cacuno gotoqu nari. xichiguat futcua.

チンチョン報告書の日本語文は、チンチョン報告書だけを見るとローマ字文と語彙が一致していない箇所があるため、ローマ字か日本語のどちらかが誤っているように見える。しかし、RAH Cortes 9-2666 にほぼ一致する本文があることがわかれば、別の解釈が可能になる。

表1・2を見てもわかるように、『日本王国記』諸本の日本語文はチンチョン報告書と同系統で、RAH Cortes 9-2666の日本語文とは系統が異なっている。つまり、この日本語文には少なくとも2系統の本文が存在し、チンチョン報告書はローマ字で片方

の系統、日本文字でもう片方の系統の本文を記載していることになる。2系統の本文をそれぞれ a・b として、この本文はキリシタンを弾圧する日本側からの告知文であるからまず日本文字の本文があったと想定され、それに対応するローマ字が作られたと考えられる。本文の系統と現在明らかになっている所収資料の関係は以下のようになる。

- ・系統 a (日本文字) → チンチョン報告書
- ・系統 a (ローマ字) → RAH Cortes 9-2666 文書
- ・系統 b (日本文字) → ?
- ・系統 b (ローマ字) → チンチョン報告書・『日本王国記』

『日本王国記』のこの箇所の記事はチンチョン報告書の内容と共通するが、まったく同じというわけではなく、別の典拠も参照していると考えられる。『日本王国記』に採用された日本語文に別系統の異文が存在するという事は、『日本王国記』の記事の典拠となった資料の系統を探る上でも一つの手がかりとなるだろう。

3.3. RAH Cortes 9-2666 の日本語文の翻字

チンチョン報告書の日本文字を参考にすると、RAH Cortes 9-2666 のローマ字書き日本語文 A (357v) と日本語文 B (358r) は、以下のように翻字するのが適当ということになるだろう。

【日本語文 A】

Cono mono domo go fattó uo so muqui : Patere xurni macari narj sono Vie Cumigaxirauo tzuca mazuri soro ainda cacunogotocu narj xichigachino tzui tachi.

(翻字) 此ものども御法度をそむきばてれ xur (宗カ) に罷成 其上組頭を仕候間如此也 七月の朔日。

【日本語文 B】

Cono Juyo tari nomono Cono iJen Christan Von aratame no toqui xutey cayemoxi soro yoxi : Isat uo saxiangue itaxi : Mata Condo Christan ni macari nari soro ainda : caqu nogotocu narj : xichi guachi futzuca.

(翻字) 此拾四人のもの 此已前きりしたん御あらための時 宗ていかへ申候由 一札を致指上 又今度きりしたんに罷成候間 如此也 七月二日。

4. おわりに

RAH Cortes 9-2666 文書の日本語文A・Bともに文字は鮮明であり、松田(1964)の翻字の誤りは原本を閲覧していれば生じにくいものではないかと考えられる。おそらくは当時取り寄せた不鮮明なモノクロ画像に基づいて翻刻・翻字を行ったのであろう。松田氏が資料調査をした当時は海外資料の閲覧は容易なことではなく、特に古文書や手稿類はモノクロ撮影のマイクロフィルムでは文字の判読が困難になることが少なかつた。このように、原本の閲覧が困難な文書類は古い不鮮明なモノクロ画像に基づく翻刻・翻字が存在し、その後もそれを継承し続けている恐れがある。あらためて原本の確認と情報のアップデートが必要である。

また、日本史研究者によるキリシタン資料のローマ字の翻字のあり方は、国語学者による翻字とは異なる場合があるようである。国語学ではローマ字の表記を重視するが、日本史学では内容の読解を優先する印象を受ける。キリシタン語学では、キリシタン手稿類については日本史研究者の翻字を参照することも多い。この点で、それぞれの研究成果について、その手法や過程も含めて、より一層の交流が必要と考える。

RAH Cortes 9-2666のような手稿類に断片的に収録されている短い日本語文は、一般的には日本語研究の対象になりにくい。それはやはりその短文単独では日本語資料としてあまりに情報が少ないからであろう。同じテキストの異本ならば諸本研究の域に留まるが、本稿で取りあげた日本語文は同じテキストの異本による異文ではなく、本文の内容が異なるテキストに引用された異文である。キリシタン資料内での異なるテキストに引用された日本語文の異文研究は、キリシタン資料間の受容関係の解明に繋がる。

異なるテキストでも同じ事件を扱った記事ならば同じ日本語文が現れる可能性はあるが、手稿類において単語レベル以上のまとまった長さのある日本語文が現れること自体が少ないので、本稿で取りあげた日本語文は貴重な例と言えるだろう。同類の資料が今後見つかるかどうかは未知数だが、これまでに歴史研究で報告された翻刻や翻字を日本語研究の視点で、原本に当たって再検討することで、新しい可能性が見出されるものと考えられる。

〔使用テキスト〕

- ・RAH Cortes 9-2666, 354r-377v…所蔵館提供のデジタル画像(カラー)を使用。
- ・チンチョン報告書(AFIO 23-1)…筆者撮影の画像を使用。野間訳(1968)の口絵に日本語文の該当箇所画像がある。翻刻は川口(2016)参照。
- ・アビラ・ヒロン『日本王国記』…フランシスコ会イベロ・オリエンタル文書館所蔵の3本(AFIO 26-1, 26-3, 26-4)は筆者撮影の画像を使用。エスコリアル図書館本(BME O-III-19)、スペイン国立

図書館本 (BNE Mss. 019628)、イエズス会ローマ文書館本 (ARSI Jap. Sin. 58) は所蔵館提供のデジタル画像 (モノクロ) を使用。

〔文献〕

川口敦子 (2016) 「フランシスコ会イベロ・オリエンタル文書館所蔵ディエゴ・デ・チンチョン報告書の日本文字とローマ字書き日本語」三重大学日本語学文学27、pp.1-11

——— (2017) 「アビラ・ヒロン『日本王国記』諸本と日本語の表記—チンチョン報告書との比較を通して—」三重大学日本語学文学28、pp.1-10

佐久間正・会田由・岩生成一訳注 (1965) 「アビラ・ヒロン 日本王国記」、『アビラ・ヒロン 日本王国記 ルイス・フロイス 日欧文化比較』(大航海時代双書 XI)、岩波書店

野間一正訳 (1968) 『ベアト・ルイス・ソテロ伝—慶長遣欧使節のいきさつ—』、東海大学出版

松田毅一 (1964) 『在南欧日本関係文書』、養徳社

〔付記1〕 本稿は JSPS 科研費 JP19K00643 による成果である。

〔付記2〕 本稿は第15回キリシタン語学研究会 (2022年3月5日、オンライン会議) における口頭発表表に加筆修正したものである。

注

- i) あるいは「同宿」の誤りか。チンチョン報告書では「doxicu Gregorio」(AFIO 23-1, 16r15)、「Doxinga Gregorio」(同26v04)「Gregorio Doxico」(同35r)、とある。

〔かわぐち あつこ 本学教員〕